ちょっと知りたい 医学の豆知識

～呼吸器と真菌（カビ）～

呼吸器内科医師　坂本　匡一

真菌で起きる呼吸器疾患は真菌が肺に感染して発病する場合と真菌に対するアレルギーで発病する場合があります。

細菌性肺炎と異なり、肺の真菌感染症の多くは基礎疾患を持つ方に発症します。肺に感染をおこす真菌にはアスペルギルス、ニューモシスチス、クリプトコッカスなどがあります。

肺アスペルギルス症には、白血病などの血液疾患、臓器移植後など高度の免疫不全状態に感染し数週間という急性の経過をとる侵襲性肺アスペルギルス症と、膠原病などに対して副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤を服用している場合や陳旧性肺結核、慢性閉塞性肺疾患など肺の構造が破壊されている状態に感染し数ヶ月の経過をたどる慢性進行性肺アスペルギルス症と、症状がなく長い経過をとることもある単純性肺アスペルギルス症の３つの病型があります。

ニューモシスチス肺炎はニューモシスチス・イロベチイという真菌よる肺炎で、健常人には発症することはなく、基礎疾患にHIV感染や副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤を服用している方に発症します。

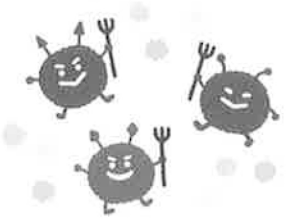
クリプトコッカス症は鳩などの糞、塵埃などから空気中に舞い上がった菌を吸入することで感染発症します。アスペルギルス、ニューモシスチスとは異なり健常人でも発症することがあり症状がなく、健診等で撮影された胸部レントゲン写真で発見されることが比較的多い肺真菌症です。単発の結節影を呈することもあり肺癌との鑑別が困難となる場合もあります。

いずれの真菌症に対しても基本的には抗真菌薬の投与ですが、治療は困難なことが多く長期に抗真菌薬の服用が必要となることもあります。

真菌に対するアレルギーで起きる疾患には過敏性肺臓炎、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、気管支喘息などがあります。

過敏性肺臓炎は抗原（真菌、有機物、無機物など）を吸入すると発熱、呼吸困難などをおこす肺炎です。夏に発症することが多い夏型過敏性肺炎は浴室などの高温多湿を好むトリコスポロンという真菌が原因となります。掃除をしていない加湿器、空調などに生息する真菌を吸入して発症することもあります。原因となる真菌を除去、吸入しなければ症状はでませんが、原因がわからないと慢性化することもあります。

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症は気管支喘息がありアスペルギルスに対するアレルギーがあるときに発症します。咳嗽、喘鳴などの気管支喘息症状の他、胸部レントゲン写真で肺炎のような陰影を認めます。治療は気管支喘息に対する治療の他、抗真菌薬を服用することもあります。



気管支喘息はハウスダスト、ダニ、ペットの毛などの他、空中浮遊真菌であるアルテルナリ（ススカビ）、クラドスポリウム（クロカビ）などが原因となっています。これらは春から秋にかけて飛散することが多く、喘息の発症、増悪に関わっています。